五十音圖解
五十音三内新撰
ホ2
5697

一冊 号 函 三 乙
門 2 5697 巻

五十字音三内所發圖解

○ア字ハロを開きて最初ふ声となす。舌唇と假すて喉より出ふゞ故ふ喉内声といふ次ふアヒ声舌に觸る時たのづゝ〻れ韻をなすゞ故ふイと舌内声といふ又轉して唇ふ觸る時おのゝ〻ウの韻をなすゞ故ふ唇内声といふ次ふエハイトを生す。是ハ呼ふ時最初ふ微隱ふイヒ音を帶する故ふイハ能生の本音。ハ所生の本音なり。然ハ是を本舌声といふオハ是を呼ふ最初ふ微隱ふウの音を帶す。然ハウハ能生の本音。オハ所生の末音なり。此アイウエオ則五韻なり。

○カハ喉内のアヒ声鹿顯して生する時かれ声をなれゞ故ふ喉内と。悉雲ふハアカ相通といふアハ細カハ鹿なるゝ〻にて俱ハ喉音なり但是と唇舌牙齒喉の五處ふと命時ハ牙音といふ。カハ喉声なれゞ舌を以て牙とまつて音を出すゞ故なり。

○サタラナハ舌に觸て声をなす。韻中ヒイモ舌なれゞ彼ハ微隱是ハ鹿顯ふて異なり。サハ舌本。タ舌中。ナハ舌末。ラハ喉と兼て舌と遍くする音なり。

○サと五處ふとる時ハ齒音といふ其故ハサハ舌声なれゞ舌と必て齒とまつて音と出すゞ故なり。或ハふ唇と開き齒と合セて。齒の間ゝを初て声と發し。やゝに齒と開きて後ふ声を究る故ともいへり。

○五十字と五處ふとる時ハアワヤ喉。タラナ舌。カ牙。サ齒。ハマ唇なり。是と五處三内異といふ。

○マハまつ唇と合セて後ふ生もゝ故ふ唇音といふハ唇の輕マ唇の重なり。

○ヤと喉舌とするハイヒ韻の所生なるゞ故なり。凡ヤを呼ぶ。必最初ふ微隱ふイヒ音と帶してイヤと呼ゞされハヤの音となるゞ。

○ワと喉唇とするハウと呼ぶに最初ふ微隱ふウ音を帶して。ウワとゝゞされハワ音となるゞ。唇韻。ワハヒ喉音と帶するゞ故ふ喉唇といふ。

○以上のカサタナハマヤラワを九聲といひ五韻ふ合セて十四音といふ。此十四音ハ能生音なり。又此五韻九声和合して三十六音を生ず。三十六音とハキクケコ。乃至井于ユラ等なり。然ハ此三十六音と声韻和合の所生音といふ。

○ア字と声韻一體といふ事あゝ其故五十音ハ五韻九声の十四音に約す。十四音ハアの一音ふ約るゞ故なり。

○ヤワヒ十字を鹽梅音といふ。ハイキシチニヒミリ井。ウクスツヌフムユル于の二十音ふヤワ行の十字と塩梅して。一百ヒ拗音となるゞ故なり。又此イキ等ウク等二十字を第二為母第三為母といふ。

○レヤ。レレ。エエ。レヨ等と自自作音といふ次の于ワ于井。于于。于于ヲ等も亦同ドぢやうなり。

○悉曇ふハマヤヒ三行と或ハ唇内とハ唇唇未中ワ本なりと。此時ハワと單唇とするかれバヤ音とハ單喉とすとなり。

右ハ本書ヒ眼目と拔いで耳ちく約め記セを猶其差別の微細なる限ハ本書ふ就て知すべし。

太田氏の漢呉音図ふ拗音開合図あゝて大貞此図ふしく。図説ハ統に大意を述セをゝさるゝと其開合音とハ必ゝろ漏てあゝけまゝ今ゝゝゝにもちゝ〻ゝ川黒字ハ開音自字ハ合音ところゝゝ。

○同書ふ拗音を原音と称し。直音と次音と呼ゞるハ原次の本末と誤まるゞそハ此図ふハ拗ゝらずとゝゝども。聊餘紙あまゝバ驚ゝ〻れくなるを。

黒河翁の後學と諭さはハふゞゝ〻ゝゞ祐むゝろゝなるゝ事ハ一切衆生と濟度をとゝいふ。ほとけおさちふも異ゝらゝざるゝ。此図解をまゞ〻ゝいらとゝゝども。深く心をとゞめてみもゝハ五十字音ヒ奥旨を盡してゝいとまもやう窺いひつ〻ゝ。さきに我父翁のいたつきせらまして。音韻假字用例ハ此図ヒ寸を推ひろめて委〻しく細やふ解まゝ〻書なれハ此図とこの用例とハたゝくていゞ鈴屋大人の紐鏡と玉の緒との如〻ゝれハ是ゝゝ樣ふ鏈め世界の學徒と教化セひのにゝゝゝ。抑皇國梵漢ともふ五十字音ハ一音ゝゝども必解くゞ〻ゝ理ゝとも。彼ハろて歌世ふほひゝゝまゝ。ゝ〻ゝ。ゝ〻ゝ。ゝ〻